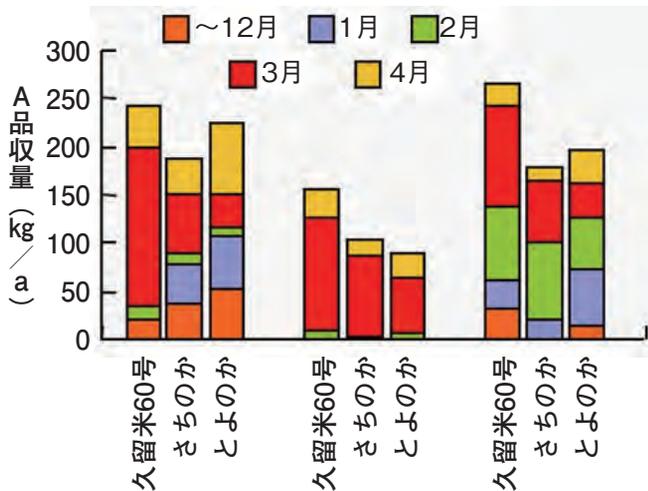




優良系統イチゴ「久留米60号」の特性



平成18年定植 平成19年定植 平成20年定植

図1 イチゴのA品収量

注) 定植日：平成18年9月20日、平成19年9月20日、平成20年9月19日



写真1 久留米60号の着果の様子

「久留米60号」は、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センターで育成されたイチゴの新しい系統です。平成18年度から3か年間、高知県における系統適応性検定試験を行った結果、優良系統と判定しましたので紹介します。

一番の特徴は、ビタミンC含量が花粉親の「さちのか」に比べ107~138%と高いことです。

生育特性では、「久留米60号」の草勢は強く、「さちのか」と比べ葉は大きく、果房長は長く、頂花房の開花日は遅い傾向が

みられ、開花日のばらつきは大きくなりました。

果形は円錐形、果皮色は明赤~鮮紅で、「さちのか」と似た特性が多くみられます(写真1)。果実硬度は「さちのか」と比べ同等かやや硬く、食味は同等以上で優れています。

また、3か年間の収量特性では、「さちのか」と比べA品収量および総収量ともに優れていました(図1)。育成者は、平成22年度に品種登録を申請する予定です。

(園芸育種担当 澤田博正 088-863-4916)